

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人 海外日系人協会

1 事業の趣旨・目的

日系人の定住化が進む中、日本で安定した生活を送るために日本語が必要という認識が強まっている。

これまで日本語を学習したことが無かった日系人は、効果的に日本語学習ができる場を切望し、日本語能力が高い日系人は、彼らの助けになる活動の場を模索している。

これら双方のニーズにこたえるべく、本講座では、日本語学習者の母語を理解し日本語能力が高い日系人を日本語指導者として養成し、地域のボランティア団体や日系コミュニティーなどで日本語指導を行える力量をつけることを目標とする。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月16日	JICA 横浜	重松美知子 武田 知子 坂本 麻子 大山 智美 水上 貴雄 土方 陽美 三浦あゆみ	8月の集中講座の内容について	レベル別(初級・中級、上級)の違いについて気づかせる為、教材として利用する「学ぼう! にほんご」のシリーズを比較するとともに、ひとつの場面を例にとり、レベル別に文型を使い分けて、比較させた。
8月27日	JICA 横浜	重松美知子 武田 知子 坂本 麻子 大山 智美 水上 貴雄 土方 陽美 三浦あゆみ	8月の集中講座についての意見交換及び9～11月の実習内容について	中級レベルの授業実習を行うにあたり、日本語能力をアップさせないと教えられないと思っている受講生が多く、人前に立って教えることに自信がない受講生が大半であった。そのため、9～11月の実習は前に立って話すチャンスをつくり、場数を踏んでもらうことを多くした。また、実習する授業の開始前に授業内容の把握、練習の目的について説明し、実習後に実習内についての振り返りを行うこととした。

11 月 26 日	JICA 横浜	重松美知子 武田 知子 坂本 麻子 大山 智美 水上 貴雄 土方 陽美 三浦あゆみ	12 月の集中講座の内容及び 1～2 月の授業実習について	12 月の集中講座では、9～11 月に実施した実習について、担当したテーマ、内容が異なる為、受講生がそれぞれのテーマに分かれて、意見交換、また発表する場をつくるとともに、1～2 月の集中講座で実習予定のテーマについて、グループごとに授業内容を話し合い、発表する活動を行うことにした。
3 月 3 日	JICA 横浜	重松美知子 武田 知子 坂本 麻子 大山 智美 水上 貴雄 土方 陽美 三浦あゆみ	1～2 月の授業実習および事業全体に関する意見交換	日本語に対する学習・教授法の違いにより、受講生の中には、日本語を教えることに対する自信を喪失するケースが一部見られた。 しかし、継続して受講している受講生には、授業の流れを意識した実習を行うなどの教える側の視点で実習を行う受講生もあり、経験を重ねることの重要性を改めて考えさせられた研修であった。

【写真】



3 養成講座の内容について

(1) 講座名：日系人日本語講師養成講座

(2) 目標

ポルトガル語・スペイン語を母語とする中南米出身者の日系人が地域のボランティア団体や日系コミュニティーなどで効果的かつ実践的に日本語指導がおこなえる日本語指導者を養成することを目的とする。

(3) 受講者の総数 14 人

(出身・国籍別内訳 ブラジル 7 人, ペルー 6 人, ボリビア 1 人)

(4) 開催時間数(回数) 35 時間 (23 回)

(5) 参加対象者の要件

ポルトガル語・スペイン語を母語とする中南米出身者の日系人のうち、集中講座の全ての日程に参加でき、かつ旧日本語能力検定3級以上の人。

(6) 受講者の募集方法

- ・ 当協会が管理・運営するホームページにおいて、募集を行った。
- ・ 対象とする中南米出身の日系人が訪れると思われる関係機関(大使館・領事館等)および中南米系レストラン・食材店などに募集パンフレットを配布した。
- ・ 平成21年度に日系人講師養成講座を受講した人に募集パンフレットを配布した。

(7) 会場 JICA 横浜内セミナールーム

(8) 使用した教材・リソース

テキスト「学ぼう！にほんご初中級」「漢字マスター3級」講師および受講生が作成したフラッシュカード。

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
平成 23 年 8 月 6 日 9:30～12:00	初級と中級の違いを知る	横浜市日本語 教室講師 重松 美知子	13 名
平成 23 年 8 月 13 日 9:30～12:00	中級の文法事項の整理と例 文作成。第4、5課	横浜市日本語 教室講師 重松 美知子	13 名
平成 23 年 8 月 20 日 9:30～12:00	中級の文法事項の整理と例 文作成。第6課	JICE 登録日本 語講師 坂本 麻子	10 名
平成 23 年 8 月 27 日 9:30～12:00	中級の文法事項の整理と例 文作成。第7課	JICE 登録日本 語講師 坂本 麻子	12 名
平成 23 年 9 月 10 日 9:00 ～ 9:30 、12:30 ～ 13:00	フラッシュカードを利用した実 習体験、第4課の文型指導の 補助	恵泉女学園大 学講師 武田 知子	2 名
平成 23 年 9 月 24 日 9:00 ～ 9:30 、12:30 ～ 13:00	フラッシュカードを利用した実 習体験 第4課の応用練習 －書く－	横浜市日本語 教室講師 重松 美知子	1 名
平成 23 年 10 月 1 日 9:00 ～ 9:30 、12:30 ～ 13:00	フラッシュカードを利用した実 習体験、第5課の文型指導の 補助	桜美林大学講 師 和美 智子	2 名
平成 23 年 10 月 8 日 9:00 ～ 9:30 、12:30 ～ 13:00	フラッシュカードを利用した実 習体験 第5課の応用練習	JICE 登録日本 語講師 坂本 麻子	2 名

	－書く－、話す		
平成 23 年 10 月 15 日 9:00 ～ 9:30 、12:30 ～ 13:00	フラッシュカードを利用した実 習体験、第6課の文型指導の 補助	恵泉女学園大 学講師 武田 知子	4 名
平成 23 年 10 月 22 日 9:00 ～ 9:30 、12:30 ～ 13:00	フラッシュカードを利用した実 習体験 第6課の応用練習 －話す－	JICE 登録日本 語講師 坂本 麻子	3 名
平成 23 年 11 月 5 日 9:00 ～ 9:30 、12:30 ～ 13:00	フラッシュカードを利用した実 習体験 第6課の応用練習 －書く－	横浜市日本語 教室講師 重松 美知子	3 名
平成 23 年 11 月 12 日 9:00 ～ 9:30 、12:30 ～ 13:00	フラッシュカードを利用した実 習体験、第7課の文型指導の 補助	JICE 登録日本 語講師 坂本 麻子	4 名
平成 23 年 11 月 19 日 9:00 ～ 9:30 、12:30 ～ 13:00	フラッシュカードを利用した実 習体験 第7課の応用練習 －話す－	JICE 登録日本 語講師 坂本 麻子	3 名
平成 23 年 12 月 3 日 9:30～12:00	9～11月の授業で担当した 内容の発表と1月以降の授業 にどうかかわるかについて考 える	JICE 登録日本 語講師 坂本 麻子	8 名
平成 23 年 12 月 10 日 9:30～12:00	8課の授業	JICE 登録日本 語講師 坂本 麻子	11 名
平成 23 年 12 月 17 日 9:30～12:00	9課の授業	恵泉女学園大 学講師 武田 知子	10 名
平成 23 年 12 月 24 日 9:30～12:00	10課の授業	恵泉女学園大 学講師 武田 知子	10 名
平成 24 年 1 月 21 日 9:00 ～ 9:30 、12:30 ～ 13:00	第8課の応用練習 －話す－	JICE 登録日本 語講師 坂本 麻子	3 名
平成 24 年 1 月 28 日 9:00 ～ 9:30 、12:30 ～ 13:00	第8課の応用練習 －書く－	恵泉女学園大 学講師 武田 知子	1 名
平成 24 年 2 月 4 日 9:00 ～ 9:30 、12:30 ～ 13:00	第9課の文型指導の補助	JICE 登録日本 語講師 坂本 麻子	3 名
平成 24 年 2 月 11 日 9:30～12:00	第9課の応用練習 －話す－	恵泉女学園大 学講師 武田 知子	2 名
平成 24 年 2 月 18 日 9:00 ～ 9:30 、12:30 ～ 13:00	第9課の応用練習 －書く－	JICE 登録日本 語講師 坂本 麻子	1 名
平成 24 年 2 月 25 日 9:00 ～ 9:30 、12:30 ～ 13:00	第9課の文型指導の補助	JICE 登録日本 語講師 坂本 麻子	2 名

※8 月、12 月は集中講座、それ以外は実習及び事前・事後指導を実施

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

講座を修了して、一人での授業やクラスの授業ができるようになるにはまだ自信がないが、友人や知人に対する授業やグループレッスンができるようになった受講生が複数名いた。

特に多い感想としては、受講生自身の日本語能力が向上(文法、会話など)したことが揚げられており、講座を引き続き受講したいという受講生が大半であった。

その他に、

- ・日本語を教えることを通じ、他人に物を伝えることの難しさ、楽しさを体で感じる事ができた
- ・グループで授業を組み立てる時間がもっとほしかった。
- ・会社や上司への正しいメールの書き方を勉強したい。
- ・会話の進め方や意見の言い方を知りたい等の意見があった。

②実施主体からの研修内容結果評価

指導対象レベルを中級としたことにより、指導者となる受講生の日本語能力が向上した。日本で生活する日系人の定住化により、より高度な日本語能力が求められている。受講生が日常に接する日系人もある程度の日本語能力を有すると考えられ、中級レベルを対象とすることは一定の成果があったと思われる。

今回の研修では、テキストの分析や教案作成といった、一般的な養成講座の内容を踏襲したものにとどまらず、日本語能力が高く、教えることに興味はあるが、教えた経験のない日系人も対象にしていたため、「前に出て教える」ことに重点をおいて、実習を行った。それに関連して、12月の集中講座において、テーマごとにグループで話し合いの場で作業をした際、受講生の経験の違いや視点の違いにより、多方面からアイデアがだされ、もっと、グループでの意見交換をしたいとの受講生からの意見もあり、受講生の日本語に対する発見が多かった活動となった。

しかし、実習の場では受講生のそれまでの日本語学習歴や言語の教授歴により、使用語彙のコントロールに苦しむ受講生がいる一方、過年度より継続して受講している受講生は授業の流れを意識した授業の組み立てが考えられるなど、積み上げてきた経験がより大きな成果を発揮した。

養成講座の学習を通し、自分自身や周囲の人たちが使う日本語に対する気づきが鋭くなってきている。常に意識を持つ姿勢が、言語センスを磨くことにつながる。そのためにも養成講座を継続受講することは、受講生たちの大切な力になっていると感じた。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

JICA(国際協力機構)等からの受託事業、日本財団からの助成事業を実施するほか、自治体等との連携事業への取り組みを考えていく予定である。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

当協会で実施する日系人を対象にした日本語教室で、実際に日本語教授法の実習を行った。日本語教室の学習者からは、わからない単語や日本と母国との制度の違いなどについて、母語で説明してもらえたため、とてもよかったというコメントがあった。

② 研修後の人材活用

受講生は、本研修の終了後に単独でのクラス授業を行えるまでには至らない者が多いが、今回学習した範囲内での、友人や知人に対するグループレッスンや他の先生の補助は可能なレベルであると思われる。

よって、受講生の在住地域等で実施されている日本語指導ボランティア・日本語教室の情報を収集し、受講生に対して活動できる場を紹介していきたい。

(12) 今後の課題

今回実施した日系人日本語指導者養成講座には、過年度からの継続生、今年度初めて受講した新規生が入り混じっていた。

継続受講といっても、1年を通して養成講座を行っているわけではなく、計2ヶ月の集中講座と、当協会が自主事業として行っている「みなとみらい日本語教室」(横浜周辺地域に在住する日系人を対象とした日本語教室)における実習の組み合わせという形を取っており、実習の場合はローテーションを組んで受講生を参加させているため、1人あたりの参加回数は限られている。よって、一般的な養成講座と比較すると学習時間は極めて短いといえる。

しかし、過年度からの継続生には目を見張る成果が表れていた。おそらく、普段の日常生活の中でも、意識をもって他人の話す日本語を聞いたり、自分が使う日本語を確認したりしているのだろう。日本語に対して感覚が鋭くなっているため、講師が説明するポイントも、より把握しやすいようだった。正しい認識ができていれば、他人に教えるときも、自信をもって説明することができる。これは受講生の大きな力となることだろう。

日系人である受講生が日本語教師として独り立ちするのは簡単なことでないが、少しずつであっても自分の日本語能力を磨き、自信をつけ、日本語能力の低い日系人に指導ができるようになるためには、受講生自らの継続学習が重要であると考え。養成講座は、その意識付けができる場となっている。

次年度以降も、また違ったレベルやアプローチの方法を考え、受講生のモチベーションを高めていきたい。受講生たちからもそれが望まれていると認識している。